

研究活動報告

国際ミニワークショップ

「アジアにおける少子化と少子化対策—韓国・シンガポールの事例—」

2002年11月19日(火) 午後に当研究所第4・5会議室で国際ミニワークショップ「アジアにおける少子化と少子化対策—韓国とシンガポールの事例—」(International Mini-Workshop on Low Fertility and Policy Responses in Asia: Cases of Korea and Singapore)が、厚生労働科学研究「韓国・台湾・シンガポール等における少子化と少子化対策の比較研究」に関連して、母子愛育会により招聘された2人の講演者を中心として下記のプログラムに沿って行われた。

- 14:00-14:15 「韓国・台湾・シンガポール等における少子化と少子化対策に関する比較研究」の概観
小島 宏 (国立社会保障・人口問題研究所)
"Overview of the Research Project on Low Fertility and Policy Responses in Korea, Taiwan and Singapore" *Hiroshi KOJIMA (NIPSSR)*
- 14:15-15:15 「韓国の圧縮された出生力転換における国家と家族」
キュンスッパ・チャン (ソウル大学社会学科教授)
"The State and Families in South Korea's Compressed Fertility Transition"
Kyung Sup CHANG (Professor of Sociology, Seoul National University)
- 15:15-15:30 休憩時間 Coffee Break
- 15:30-16:30 「出生力と人口政策：シンガポールの経験」
ムイテン・ヤップ (シンガポール政策研究所上級研究員)
"Fertility and Population Policy: the Singapore Experience"
Mui-Teng YAP (Senior Research Fellow, Institute of Policy Studies, Singapore)
- 16:30-17:00 全体討論 Discussion

関心を惹くテーマである上、翌日から開催された「少子化と家族・労働政策に関する国際ワークショップ」の参加者の一部も参加したことから盛況であった。なお、ヤップ博士には11月13日(水) 午後に「シンガポールの労働移動管理」(Management of Labour Migration in Singapore) というテーマで特別講演をしていただいたが、こちらも盛況であった。(小島 宏記)

少子化と家族・労働政策に関する国際ワークショップ

東京虎ノ門のアジア開発銀行研究所で2002年11月20日から21日にかけて、国立社会保障・人口問題研究所と一橋大学経済研究所「世代間利害調整に関する研究プロジェクト」の共催で、「少子化と家